

# 天文学会特別セッション 「安全保障と天文学 II 声明作成へ向けて」 趣旨説明

日本天文学会会長 柴田一成

世話人：柴田一成(京都大学)、須藤靖(東京大学)、梶田隆章(東京大学)、  
山崎典子(ISAS/JAXA)、野津湧太(京都大学)、林左絵子(国立天文台)、  
土居守(東京大学)、伊王野大介(国立天文台)、山下卓也(国立天文台)

主催：公益社団法人 日本天文学会

共催：日本学術会議

# これまでの経緯

- 防衛装備庁の「安全保障技術研究推進制度(2015～)」
- 日本学術会議の「軍事的安全保障研究に関する声明」  
(2017年3月24日)
- 2017年6月3日 日本天文学会代議員総会で、  
代議員・学術会議会員の須藤靖さんの講演
- 2017年11月号～2018年3月号 天文月報に連載記事(6名)
- 2018年春の年会、特別セッション「安全保障と天文学」で  
初めての議論(今後も議論を継続することに)
- 国内外のメディアからも取り上げられた  
(毎日新聞、読売新聞、Nature)
- 本特別セッション 天文学会として声明を出す方向で議論をスタート

# 今後の予定

- 理事会(9月19日)天文学会声明検討WGの立ち上げ
- 代議員総会(9月20日)

- 2018年10月、11月 WG
- 2018年12月22日 全体集会@京大
- 理事会(2019年1月12日)
- 代議員総会(2019年1月26日)
- 2019年 2月 WG

来年3月に声明公表を  
目標に進めたい

- 2019年3月14日 年会初日に特別セッションを開催
- 理事会(2019年3月)
- 代議員総会(2019年3月)final endorsement

# 本特別セッションのメディア取材

- 基本的には前回同様、特別セッションは記者の方々に対しても公開（傍聴可）としています。
- **今回はさらに特別セッション後に記者会見の場を設けました。そこでの質疑応答のやりとりが天文学会の正式な対応となります。**
- 特別セッションは傍聴可ですが、**一部の切り取り報道は控えていただきます。**このことを了承いただいた上、記者の方々には出席を許可しています。
- あるメディアから特別セッションにTVカメラを入れても良いか？ という問い合わせが来ています。これに対しては
- **特別セッションの撮影の際には個人（の発言）が同定されるような撮影は控えていただきます、（これは市民講演会や観望会の取材も同様ですね。映像や写真で個人が同定される可能性があるときは あらかじめ個人本人から公開の同意を取る必要があります。）**

**特別セッション参加者の皆さんへ：**

**個人（の発言）が同定されるような撮影・報道の心配はありません！**

**自由な討論、活発な質疑応答、よろしくお願いします**

# 特別セッション 安全保障と天文学 II

## 声明作成に向けて

- 9月19日(水) 15:00 ~ 17:00
- プログラム
  1. はじめに:岡村 定矩 (日本学術会議 連携会員)
  2. セッション趣旨説明 柴田 一成 (日本天文学会会長)
  3. コミュニティーの意見:
    - 谷本 敦 (京都大学 博士課程在学)
    - 戸谷 友則 (東京大学 教授)
    - 池内 了 (総合研究大学大学院・名古屋大学 名誉教授)
  4. 総合討論
  5. 挨拶:林 正彦 (日本学術会議 連携会員)
- 主催:日本天文学会
- 共催:日本学術会議

特別セッション終了後、姫路駅に向けて移動し、じばさんびるにて  
18:00-19:00 日本天文学会がこの問題に取り組んでいる内容を記者の皆様詳しくご説明を  
するとともに、質問をお受けします。

# 声明をまとめるにあたって 議論すべき項目(案)

- 前提:
  - 天文学会として意識している問題点は何かを前面に出すべきである。
  - 一般社会(市民)に理解してもらえるように発信する
  - 多様な意見があることを発信する。
  - 天文学は最先端の科学技術を利用しているため、安全保障技術研究推進制度に関係する
  - 歴史的な反省も含める(表現工夫)
- 内容:
  - 問題
    - 基礎科学に関する研究費(運交金、公費)の減少
  - 懸念事項
    - 自由な研究の妨げ(テーマの選定、結果の公表、研究倫理)
  - 天文学の特徴(国際協力、大型装置)
  - 科学の発展を利用していかに平和な世界を築いていくか